前会長から

前会長の退任あいさつ

神谷　幸秀*
Yukihide KAMIYA*

木原前々会長の後を受けて，2期4年間（2008.4-2012.3），加速器学会長を務めさせて頂きましたが，非力でいい加減な性格の私が何とか任期を全うできたのも，会員の皆様，賛助会員の企業の方々，そして評議員の方々の学会へのご支援，ご協力の賜と感謝申し上げます．

また，この場を借りて特に感謝申し上げたいのは，幹事会及び各種委員会の方々，学会事務局そして年会の主催者の方々です．幹事（及び各種委員会）の方々の献身的なご努力と熱意なくしては，学会の運営は成り立っていかないということをこの4年間で改めて認識しました．また，継続的かつ日常的に学会活動をサポートする事務局なくしては，スムーズな運営は不可能です．加速器学会を担当する（一名の）専任者の方はこの4年間で何人かに代わりましたが，一貫して㈲ワーズにサポートして頂きました．毎年，夏に開催される年会では，主催地の方々，特に主催する組織が小さな場合には，ある特定の方々に大変な負担を強いることになったかと思っております．以上，ここではお名前は逐一，挙げさせて頂きませんが，前会長として再度，皆様に感謝申し上げたいと存じます．本当に，ありがとうございました．

さて，会長職を退いて，はや半年近くが経ちましたが，たまたま同時期にKEKの管理職も退き，現在は，間近に迫った退職に向けた「隠遁生活」，個人的には憧れであった「窓際生活」を満喫している最中です．よって，全く努力しないでも，管理職にまつわるような物事はすべて忘却の彼方に去りつつあります．そこで，努力を振り絞って，また4年間の資料をさがして，この退任のあいさつを書こうと一時は思い立ったこともありましたが，この間，小さなものも含めると学会運営に関する様々な案件や懸案があったことが思い出されるなど，筆が一向に進みません．その上，編集委員会からの「厳しい」原稿の催促もありましたので，次の一点のみについて意見を述べさせて頂きます．

それは，ある会員からご意見がありました，先の東日本大震災のような大災害が起きた場合の学会の対応についてです．これについては，学会として，まだ，まとまった見解が出されているわけではありませんので，以下は，全くの個人的な「過激な」意見とお考え頂きたいと存じます．今後，学会の対応はどうあるべきかについて様々な場で反論，議論が起きればと思っております．

私の意見は全く単純で，一言で言えば，「多数の命が奪われ，膨大な数の人々の生活基盤が失われるような大災害に対して，（加速器）学会は全く無力である」というものです．また，「このような大災害に伴う加速器施設の被害の復旧についても，学会という組織は，（ほぼ）同様に無力である」というものです．災害への迅速な対応や甚大な被害の復旧作業を行うには，具体的な実務を担うことができる組織，つまり実行力のある組織が必要ですが，一般的に学会という組織は，そのようにできていません．加速器学会について言えば，専任者が事務局の一名のみという組織では，大災害に対応する実行力は全くありません．また，例えば学会にはマンパワーを各研究組織から調達し，それを適切に配置する力，権限も持ち合わせていません．一般論を言えば，学会という組織が果たすべき役割は，災害が起きる前に，被害を最小限に留めるにはどうすべきかを提言し，また万が一大災害が起きた場合には，復旧に向けた長期的な展望について提言するということではないかと思います（ただし，加速器学会がこのこ

* KEK 加速器研究施設

とについて有効な手立てを打てるかどうかはわたしにはよくわかりません).

なお，今回の災害復旧について，ご要望があれば，学会として国に対して何らかのメッセージを発することも可能かと（個人的には四六時中，所属するKEKの復旧作業に忙殺される中で）思っていましたが，どこからもそのような要望はありませんでした．さらに，各機関の被害を学会誌でまとめて報告しようとしましたが，ある機関からは，復旧予算要求等とのからみで，その企画に対してむしろネガティブな反応でさえあったと理解しています．また，当時，学会に対して，その他にこうしてほしいというような要望や声は全くなかったというのが実情です．ただ，今から振り返れば，学会としてもう少し積極的に会員の方々の声を聞くことをすべきであったのではないかと反省しています．

最後になりましたが，ここで会員の方々に，一つご協力をお願いしたいことがあります．それは，つい最近，学会で発刊することが決まりました「加速器ハンドブック」についてです．2014年完成に向け，今後，多くの会員の方にお忙しい中，執筆のご無理をお願いすることになるかと存じますので，その節にはよろしくご協力のほどお願い申し上げます．前もって，これについても感謝申し上げて，退任のあいさつとさせて頂きます．

以上をもって，挨拶文を書き上げたつもりでいたところ，またもや，ある編集委員から紙面にまだ余裕があるが…．また，「会長任期中のトピックスとして，企業枠評議員や学会ロゴマーク，共同研究拠点の支援書，会費滞納者への退会勧告などもあったのでは…」とのコメントがありました．そこで，記憶を呼び戻しつつ，すこし追記します．

加速器学会の発展は企業の方々の積極的な参画なくしてはあり得ませんが，学会発足以来，企業の方は遠慮されているのか，学会への意見や関与が少なかったように見受けられました．そこで，この状況を少しでも改善しようと，企業枠評議員の制度を設けることになりました．つまり，この制度は，あくまでも改善のための「手段」ですので，これを契機に，今後は，多くの企業の方々が学会に積極的に参画し，また声を大にして頂くことを期待しています．また，共同研究拠点の支援とは，『従来，大学附置研等には文科省から，「直接に」予算が配分されていたが，今後は配分しない．ただし共同利用・共同研究拠点として認定されれば，国として大学の枠を超えて支援する』という制度改革が行われたことに伴い，加速器関連の大学研究所・施設等からの要請に基づいて，学会として認定への支援をしたものです．会費滞納は，学会にとって悩ましい問題でありますが，ある時には，100名近い方々のお一人お一人にメールで会費納入をお願いしたことなどがありました．

最後に，事業仕分けに関連して，2009年12月1日付けで，学会から文科大臣宛に提出した，「我が国の科学技術に関する緊急声明―我が国の科学技術の将来を憂える―」の主文を以下に転記します．それは，ここに述べられている主旨が依然として震災後の今でも活きていると思うからです．

（Ⅰ） 日本加速器学会は，我が国とその子孫の繁栄を支える唯一の手段とも言える科学技術への投資と研究基盤の整備を国としてこれまでに以上に力強く推進するとともに，我が国の次期科学技術基本計画等の政策に「加速器技術」を重点的かつ継続的に推進すべき基幹技術として位置づけて頂くことを切に希望するものである．

（Ⅱ） 日本加速器学会は，一時的な予算削減が，人材の枯渇と研究施設の崩壊を招き，ひいては子供たちの科学への夢や憧れを喪失させ，やがては著しい学力の低下，そして国力の衰退，凋落をもたらすにちがいないと，深く憂慮するものである．